

# 化学工業日報

2012年(平成24年)

2月17日 金曜日

第22284号 (日刊、土・日・祝日除く)

マテリアル・トレイディング・カンパニー(東京港区、小滝秀明社長)は14日、東京都港区の田町カンファレンスセンターでセミナー「希土類会議シリーズ」中重希土のゆくえ」を開催した。磁石・電池・ガラス関連メーカー、商社などから105人が参加した。中国の新輸出政策の影響、日本の主用途の現状などに関する講演が行われた。

開会に際して小滝社長は「昨年は、中国からの輸入制限とともに価格は最高値を更新し続けたものの、8月からは一変して下落傾向となった。中国以外のレアアース供給先がいまだ不安定ななか、中重希土にも輸出制限が設けられ、今後の安定調達に不安を感じている人々も多いだろう。レアアース業界に生きる者として、中重希土の問題に対してソリューションをみつけ、それをチャンスに結び付けたい。それがお客さまの利益、ひいては国益につながると確信している」とあいさつ



マテリアル・トレイディング・カンパニー

## 「中重希土問題」でセミナー開催

商社などから105人参加

東京財団の平沼光政策  
研究員兼政策プロデューサーは「レアアースのゆ

あいさつに立つ小滝社長

くえ 2012」と題して講演。「今年の第1次レアアース輸出枠は軽希土で2万1700ト、中重希土で3204トに分けられた。中国が中重希土を戦略物質として注力していく

松浦裕技師長による「NdFeB 焼結磁石の最新動向」、蛍光体同学会の山元明会長による「蛍光体におけるレアアースの重要性」と題した講演が行われた。

ことが自ずと分かる」と語った。問題解決の鍵として「レアアースのリサイクル・代替技術開発市場の創出」「レアアース供給源の多様化」などを紹介した。

このほか、日立金属N EOMAXカンパニーの最後にマテリアル・トレイディング・カンパニーが、中重希土の取り扱い強化の一環として提携したオーストラリアのノーサン・ミネラルズ社のジョージ・ボーク社長が壇上に上がり、中重希土問題の解決策として、同社の特徴や商品を紹介した。なお同社の鉱山からはイットリウム、ジスプロシウム、ガドリニウム、テルビウムなどが産出される。